

INTERVIEW

国立国際医療研究センター
国際感染症センター国際感染症対策室 医長
忽那賢志 先生



新型コロナウイルス感染症の 最前線で

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

新興感染症に興味をもって

山田隆司(聞き手) 今日は国立国際医療研究センターの忽那賢志先生のお話をリモートで伺います。忽那先生は今、新型コロナウイルス感染症に最前線に対応されていて、非常にご多忙とは思いますが、よろしくお願ひします。

先生とは、私が東日本大震災で被災した女川町立病院の支援に入っているときに、先生が市立奈良病院から支援に来てくださって、初めてお目にかかりました。あの時は本当にありがとうございました。

忽那賢志 女川では私も貴重な経験をさせていただきました。

山田 今回、このコロナのことで先生のお顔をテレビの画面で見てびっくりしました。

まずは、先生が今に至るまでのご経歴を紹介していただけますか。

忽那 私は北九州出身ですが、大学は山口大学を卒業し、関門医療センターで初期研修をしました。平成16年卒業なので卒後臨床研修制度が始まった年だったのですね。学生の頃は血液内科医になりたいと思っていましたが、初期研修で内科、外科をローテーションする中で、感染症はどの科でも問題になり、また意外と学生のときには勉強する機会がなかったということを感じて、感染症をやろうと思うようになりました。そこで、感染症に進む前にしっかりと診療の基本を身につけたいと考え、初期研修を終わって3年間、山口大学救命センターで救急科の研修を受

けました。重症感染症の診療や全身管理を学んだあと、奈良県立医科大学の感染症センターに行くことにしました。奈良医大を選んだのは、私がお寺が好きなので、お寺巡りができてかつ感染症の研修もできるということ(笑)。また奈良医大感染症センターの笠原敬教授が当時ブログをされていて、それを見て、面白いなと思ったのがきっかけでした。

奈良医大感染症センターで2年ほど基本を学んだ後、奈良医大からの派遣で市立奈良病院へ行くことになりました。奈良医大は県内の基幹病院に感染症医を送り込んで、地域の感染症診療をしっかりと盛り上げようという理念があったのですね。

山田 市立奈良病院へ行かれたのは大学の要請だったのですね。

忽那 はい。奈良医大は奈良県の中部にあり、中部は感染症医が結構いるのです。ところが、市立奈良病院のある北部は感染症専門医がいない環境でしたので、北部でしっかりと感染症科を立ち上げるといふ使命をもって伺うことになりました。当時、感染症科だけではまだあまり仕事がなかったため、総合診療科の先生方と一緒に外来などのお手伝いもさせていただきました。

山田 市立奈良病院には何年いらしたのですか。

忽那 2年間です。そのときにウズベキスタンで感染した20歳の女性が、発熱を主訴に市立奈良病院に紹介されて来院し、最終診断が回帰熱でした。日本で最初に診断された回帰熱の症例だったのですね。輸入感染症で、日本ではほとんどないような珍しい感染症を経験したわけです。それでそういう輸入感染症をたくさん診ている施設で勉強してみたいと思うようになって、その後、国際医療研究センターにフェローというかたちで入りました。国際医療研究センターは輸入感染症の症例が一番多く集まっているところ

です。

山田 では最初は輸入感染症に特に興味があったというよりも、市立奈良病院でたまたま回帰熱の症例を経験されたことが大きかったわけですね。

忽那 はい。運命的な出会いですね。

山田 国際医療研究センターに行かれてから何年ですか。

忽那 2012年4月からですから、9年目です。

最初はフェローという立場だったので、一般感染症の病棟の患者さんを診たり、感染症のコンサルテーションや感染対策のトレーニングを受けたり、臨床研究をしたりして、2年間過ごしました。その後ポストが空いたので常勤として残り、それからは輸入感染症や国際感染症を中心に担当しました。なので、2014年に国内でデング熱が流行ったときも、デング熱の症例をまとめたり、啓発活動をしました。その後アフリカでエボラ出血熱、韓国でMERS、ブラジルでジカ熱が流行り、新興感染症はたびたびアウトブレイクしましたが、まさか今回の新型コロナウイルス感染症のように本当に世界を一変させるような感染症が出てくるとは、思っていませんでした。

山田 本当ですね。エボラやMERS、ジカ熱はそれほど国内に入ってきてませんでしたよね。

忽那 エボラは9名くらい疑い例は発生しましたが、MERSは出ていませんし、ジカ熱は20例くらい輸入例は出ているのですが、国内での感染にはつながりませんでした。

山田 そういった新興感染症が出た場合は、海外へ行ったりもされるのですか。

忽那 コンゴ民主共和国で2018年にエボラが流行したことがあって、そのときは現地の支援に行ったりしました。

山田 やはりそういうことにも対応されるわけですね。